

令和6年度 第2回
希望郷いわてモニターアンケート

ひとにやさしいまちづくりに関する意識調査結果

令和6年7月
岩手県保健福祉部地域福祉課

ひとにやさしいまちづくりに関するアンケートの結果について

I アンケートの趣旨

県では、「すべての人が個人として尊重され、自らの意思に基づき自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される地域社会の形成」を目指して、平成7年に「ひとにやさしいまちづくり条例」を制定し、誰もが利用しやすい建物、交通機関等の整備の促進や県民の方々に対するひとにやさしいまちづくりについての普及啓発を進めてきたところです。

本調査は、今後の県が進めるひとにやさしいまちづくりに関する施策の参考とするために実施しました。

II 調査実施期間

令和6年5月29日(水) ～ 同年6月14日(金)

III 調査方法

調査紙郵送及びインターネット

IV 調査対象

令和6、7年度希望郷いわてモニター 182名

V 回答者数

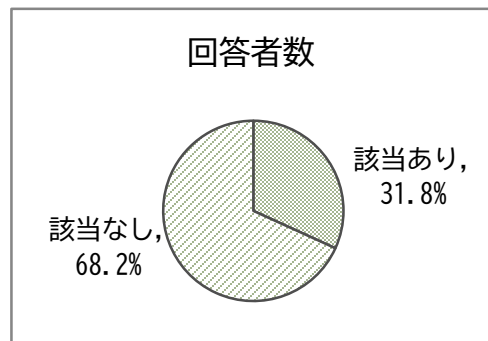
151名

VI 回答率

83.0%

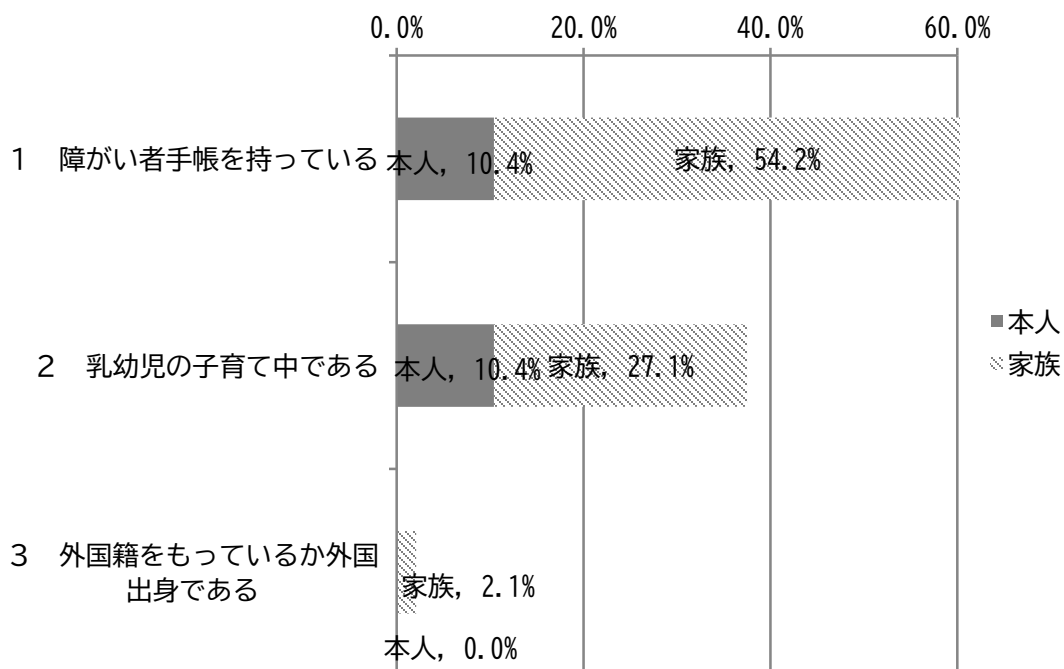
回答者の属性

	回答者数	比率
該当あり	48	31.8%
該当なし	103	68.2%
合計	151	100.0%



<回答の内訳> (重複あり)

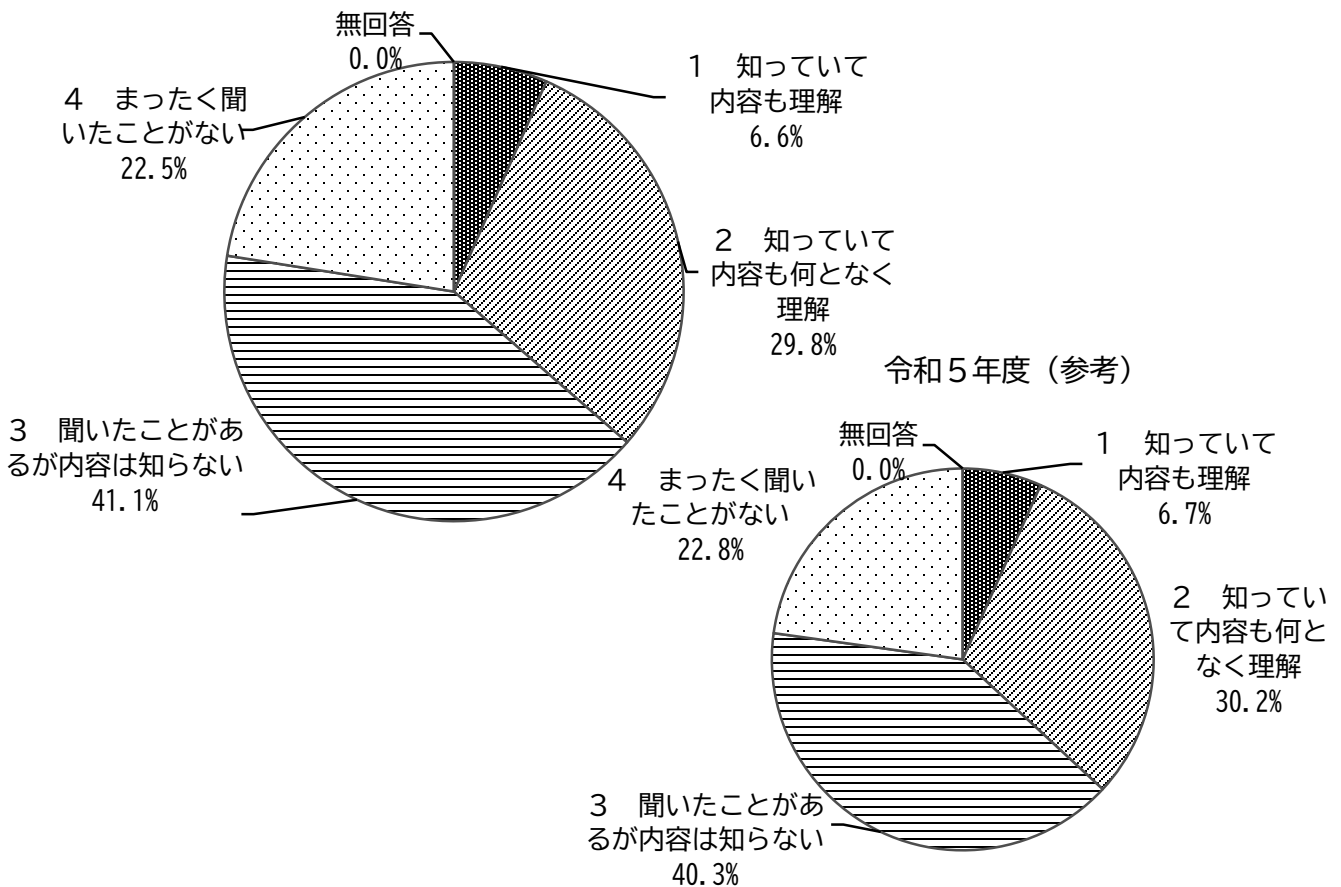
	本人		家族		計	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
1 障がい者手帳を持っている	5	10.4%	26	54.2%	31	64.6%
2 乳幼児の子育て中である	5	10.4%	13	27.1%	18	37.5%
3 外国籍を持っているか外国出身である	0	0.0%	1	2.1%	1	2.1%
合計	10	20.8%	40	83.3%	—	—



問1

県の「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について、知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 知っていて内容も理解している	10	6.6%	10	6.7%
2 知っていて内容も何となく理解している	45	29.8%	45	30.2%
3 聞いたことがあるが内容は知らない	62	41.1%	60	40.3%
4 全く聞いたことがない	34	22.5%	34	22.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	151		149	



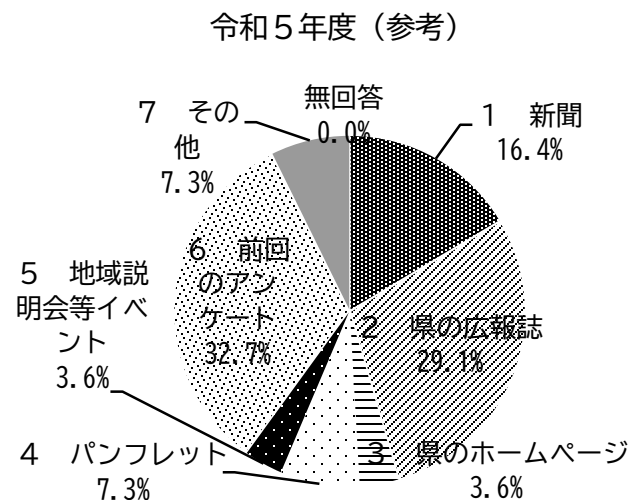
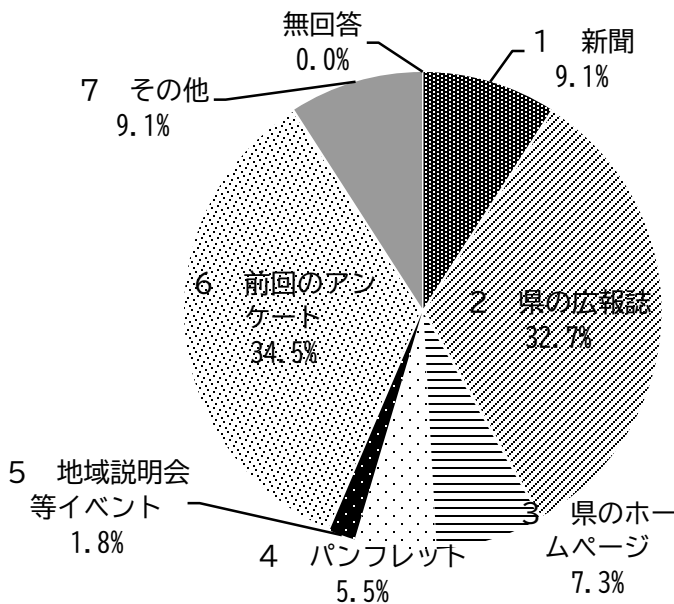
【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針について知っていて内容も理解している方（「何となく理解している」も含む。）は36.4%となり、令和5年度と比較し、0.5%減少した。

問2

問1で①又は②を選択された方にお聞きします。「ひとにやさしいまちづくり条例」や「ひとにやさしいまちづくり推進指針」について知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 新聞	5	9.1%	9	16.4%
2 県の広報誌	18	32.7%	16	29.1%
3 県のホームページ	4	7.3%	2	3.6%
4 パンフレット	3	5.5%	4	7.3%
5 地域説明会等イベント	1	1.8%	2	3.6%
6 前回のアンケート	19	34.5%	18	32.7%
7 その他	5	9.1%	4	7.3%
無効回答・無回答	0	0.0%	0	0.0%
合計	55		55	



【調査結果】

ひとにやさしいまちづくり条例や同推進指針を知ったきっかけとして、前回のアンケートと回答した方の割合が多く、今後も普及啓発を継続する必要がある。

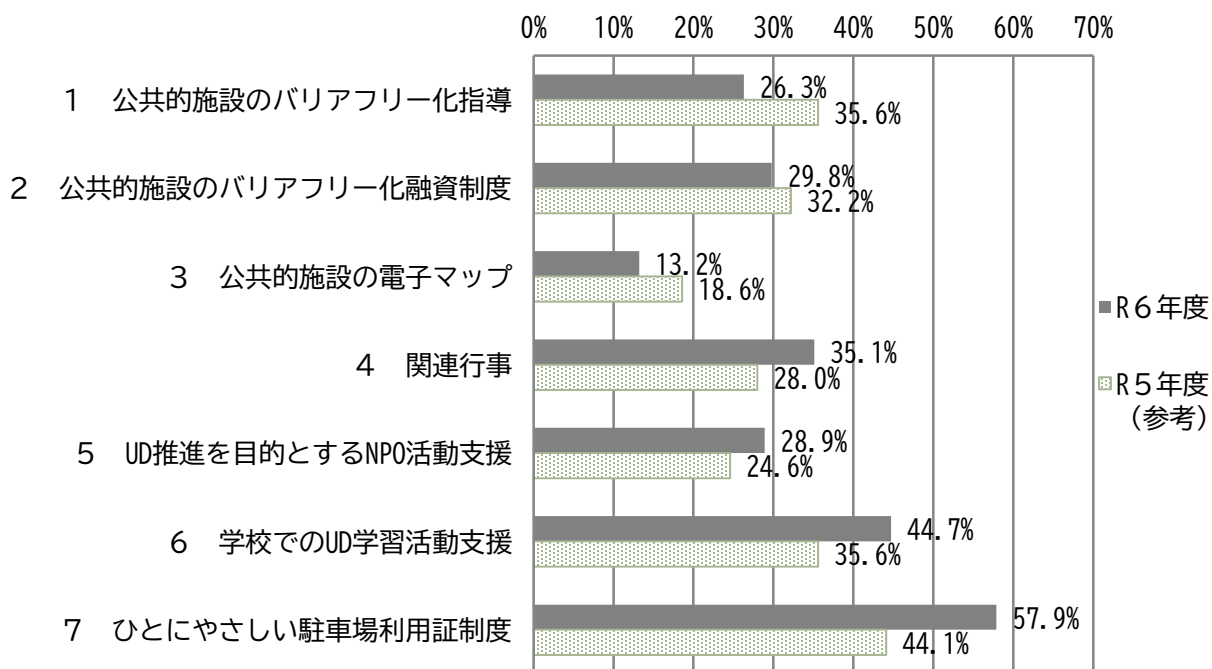
<7その他の内容>

● TVにて

問3

県では、前記の条例に基づき、以下の事業を展開していますが、見たり聞いたことのあるもの、利用したことのあるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共的施設のバリアフリー化指導	30	26.3%	42	35.6%
2 公共的施設のバリアフリー化融資制度	34	29.8%	38	32.2%
3 公共的施設の電子マップ	15	13.2%	22	18.6%
4 関連行事の開催	40	35.1%	33	28.0%
5 ユニバーサルデザイン推進を目的とするNPO活動支援	33	28.9%	29	24.6%
6 学校でのユニバーサルデザイン学習活動支援	51	44.7%	42	35.6%
7 ひとにやさしい駐車場利用証制度 (回答者実数計)	66	57.9%	52	44.1%
	114		118	



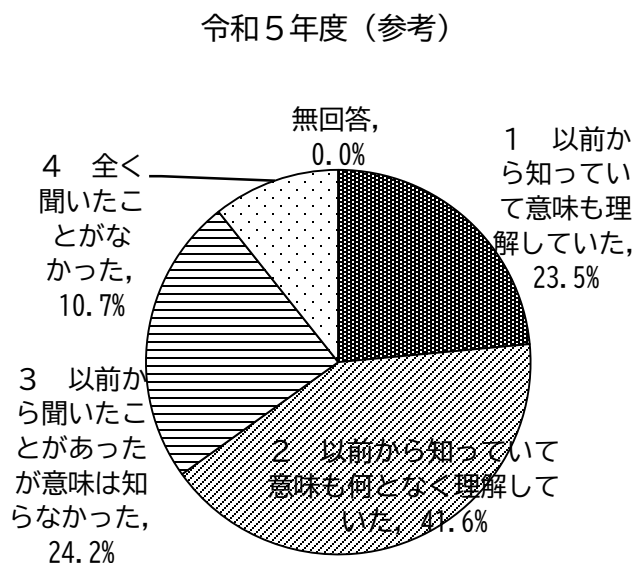
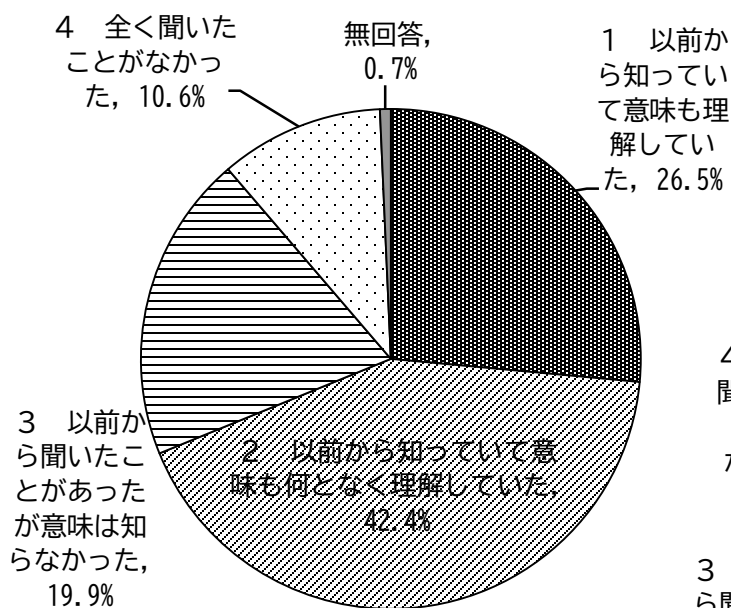
【調査結果】

平成22年度から取り組んでいる「ひとにやさしい駐車場利用証制度」の認知度が57.9%と最も高く、次いで、「学校でのUD学習活動支援」が44.7%となっている。

問4

「ユニバーサルデザイン」について、本アンケートに御協力いただく時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて意味も理解していた	40	26.5%	35	23.5%
2 以前から知っていて意味も何となく理解していた	64	42.4%	62	41.6%
3 以前から聞いたことがあったが意味は知らなかった	30	19.9%	36	24.2%
4 全く聞いたことがなかった	16	10.6%	16	10.7%
無回答	1	0.7%	0	0.0%
合計	151		149	



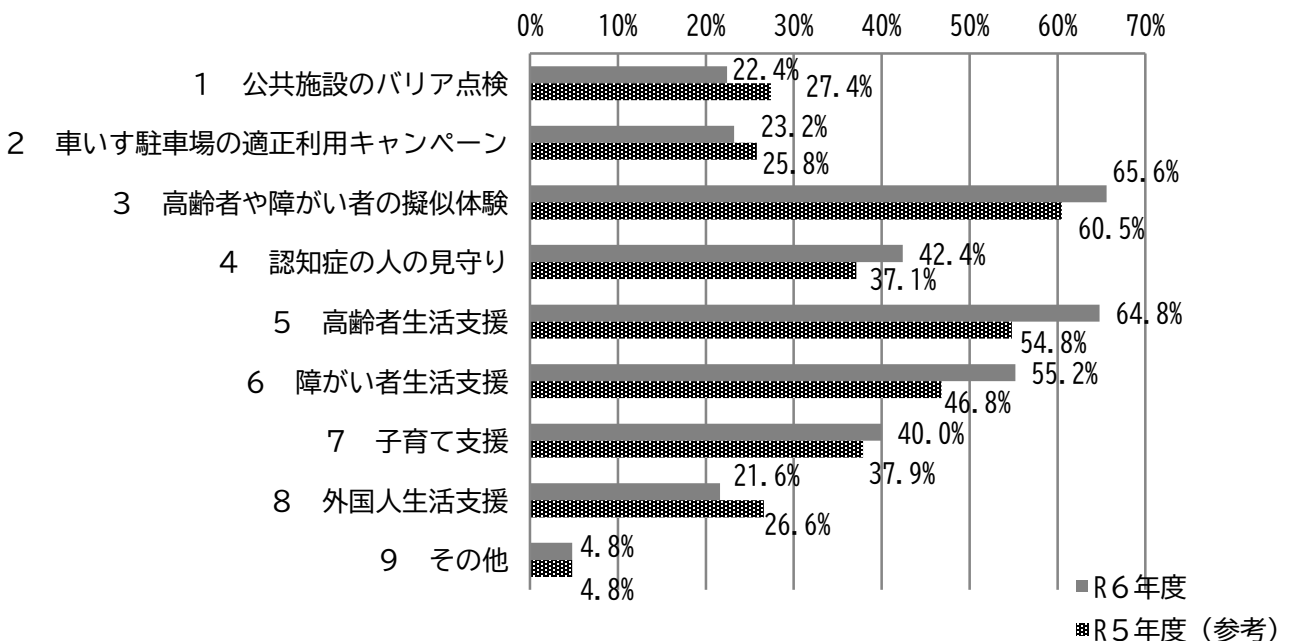
【調査結果】

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っていて意味も理解している方（「何となく理解」も含む。）の割合は68.9%となり、令和5年度と比較して、3.8%増加した。

問5

以下の活動やその活動に取り組む民間団体・グループを見たり聞いたり、実際に参加したことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 公共施設のバリア点検	28	22.4%	34	27.4%
2 車椅子駐車場の適正利用キャンペーン	29	23.2%	32	25.8%
3 高齢者や障がい者の疑似体験	82	65.6%	75	60.5%
4 認知症の人の見守り	53	42.4%	46	37.1%
5 高齢者生活支援	81	64.8%	68	54.8%
6 障がい者生活支援	69	55.2%	58	46.8%
7 子育て支援	50	40.0%	47	37.9%
8 外国人生活支援	27	21.6%	33	26.6%
9 その他	6	4.8%	6	4.8%
（回答者実数計）	125		124	



【調査結果】

見たり聞いたり、参加したことがある割合が多いのは、「高齢者や障がい者の疑似体験」で65.6%、次いで「高齢者生活支援」で64.8%となっている。

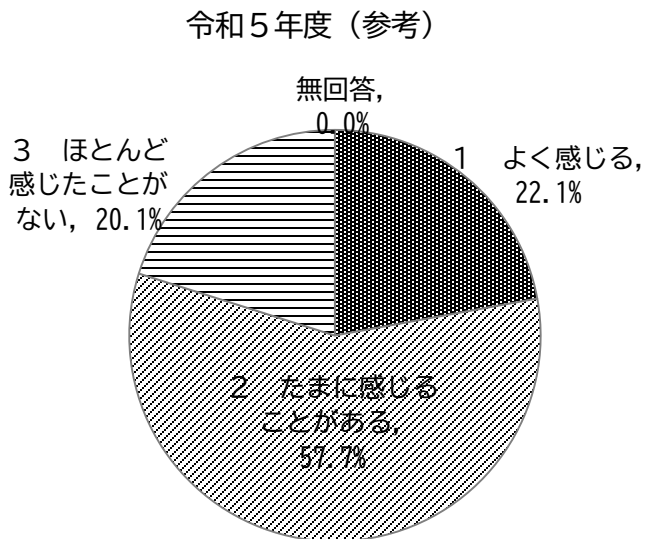
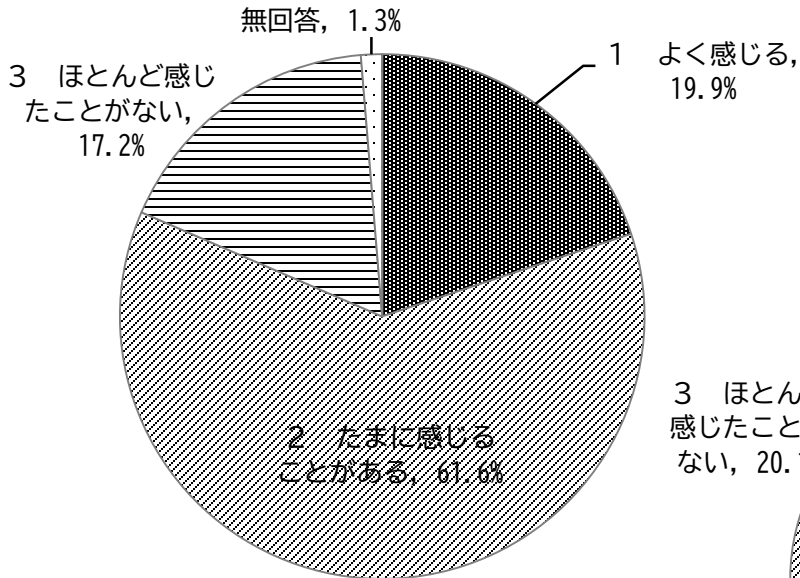
< 9 その他の内容 >

- 高齢者の支援活動を実体験した。
- 活動的な内容の情報があまりないためありません。
- インクルーシブなイベント開催
- 見聞きした記憶がない。
- 障がい者の為の、デイジー編集ボランティアをしていた。

問6

まちの中で「ハード」（公共的施設、道路など）を利用又は移動するときにバリア（障壁）を感じることはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる	30	19.9%	33	22.1%
2 たまに感じることもある	93	61.6%	86	57.7%
3 ほとんど感じたことがない	26	17.2%	30	20.1%
無回答	2	1.3%	0	0.0%
合計	151		149	



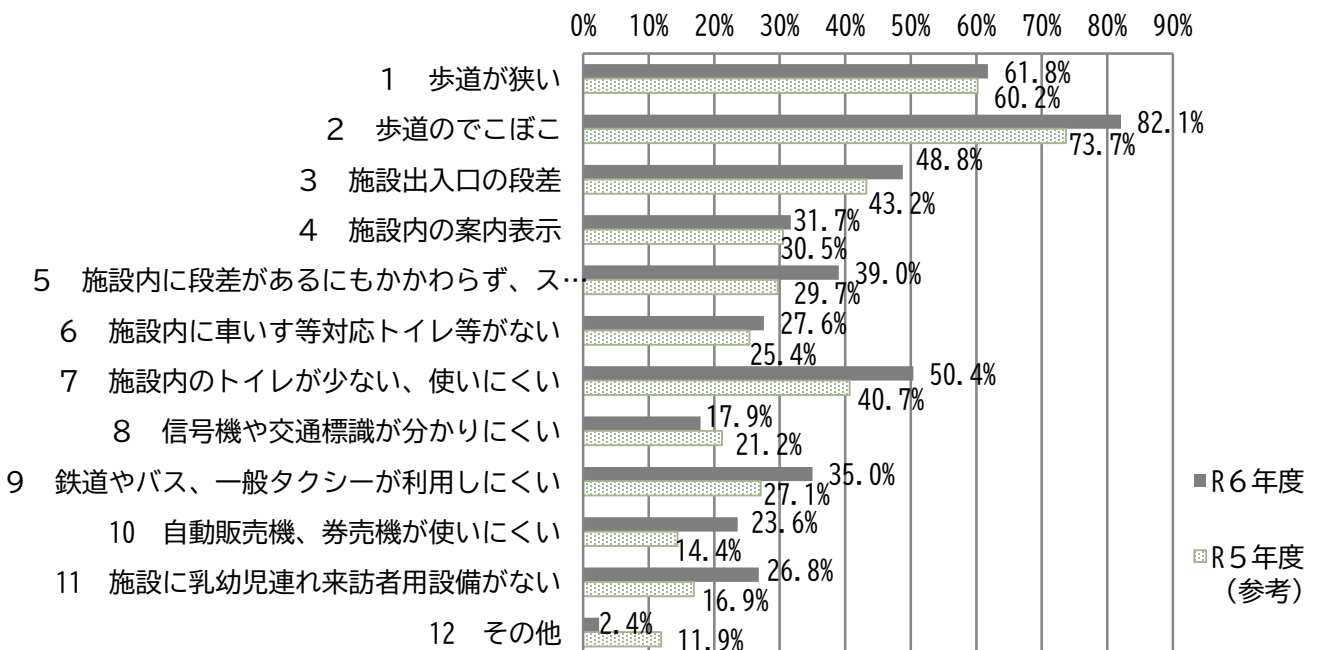
【調査結果】

「よく感じる」「たまに感じる**こと**がある」と回答した方の割合は、81.5%となり、令和5年度と比較して1.7%増加した。

問7

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じるのどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 歩道が狭い	76	61.8%	71	60.2%
2 歩道のでこぼこ	101	82.1%	87	73.7%
3 施設出入口の段差	60	48.8%	51	43.2%
4 施設内の案内表示	39	31.7%	36	30.5%
5 施設内に段差があるにもかかわらず、ス クープ等がない	48	39.0%	35	29.7%
6 施設内に車椅子等対応トイレ等がない	34	27.6%	30	25.4%
7 施設内のトイレが少ない、使いにくい	62	50.4%	48	40.7%
8 信号機や交通標識が分かりにくい	22	17.9%	25	21.2%
9 鉄道やバス、一般タクシーが利用しにく い	43	35.0%	32	27.1%
10 自動販売機、券売機が使いにくい	29	23.6%	17	14.4%
11 施設に乳幼児連れ来訪者用設備がない	33	26.8%	20	16.9%
12 その他	3	2.4%	14	11.9%
（回答者実数計）	123		118	



【調査結果】

歩道（狭い、でこぼこ）にバリアを感じると回答した方が多く、歩道のでこぼこについては、82.1%の方がバリアと感じている。

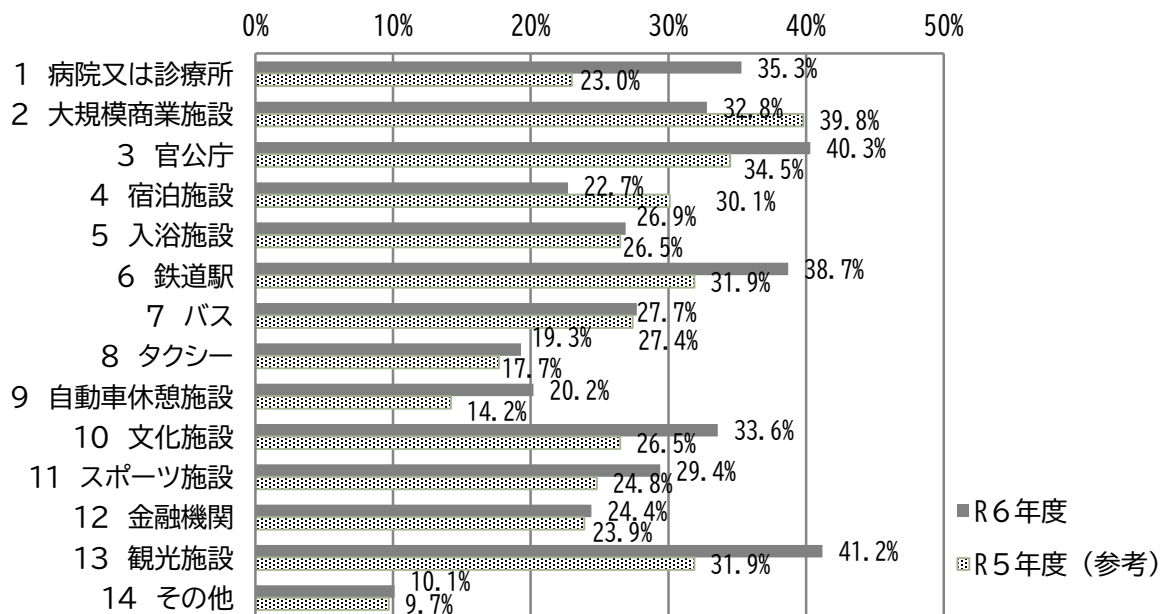
<12その他の内容>

- 県民会館のホールの入口まで広い階段があり、すごい建物と思ったのですが、年を取りケガをしてからエレベーターを探すことにトイレ側に行き大ホールに行くには細い廊下を歩き乗り継ぎで上がる。しかし、これを知らない人が多い。私も知らなかった。
- 生協のクオレとかは高齢が多い。この間も下から見ると手すりにつかまり、1段ずつ降りて来ている。私はエレベーター教えようと思っても自分が階段無理だったので、悲しい思いをしました。今もあの場面が目に残っています。悲しい。
- 古い施設はスロープがあっても狭い。
- 祖父（92才）がスーパーから自宅に歩いて戻る際、タクシーをお願いしたら拒否された。（600mの距離）
- 歩道がなかったり、側溝の上が歩道として使われているが、穴が大きく足や杖が引っかかりそう。
- 以前奥州市役所のWCを直していただきましたが、市民課のある1 F WCだけでも引き戸でオストメイト使えるWCを！
- 地方郵便局等3台中1台が障がい者用のため路上駐車多い、駐車スペースが少ないうえ、障がい者等用と一般用の相方で不便の声が聞かれる。
- 側溝に蓋のない所がいっぱいある（危険）
- 花巻温泉界隈の道路標識が統一されてなく少なく県外人は迷う。偉人たちの案内をもっと大きく見やすく国道からの案内は大事。
- これはぜひ！！疲れた時に座れるイス・ベンチが道路etcにない！！（少なすぎる）これは本当に大変な問題だと思います。

問8

問6で①又は②を選択された方にお聞きします。バリア（障壁）を感じたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	42	35.3%	26	23.0%
2 大規模商業施設	39	32.8%	45	39.8%
3 官公庁	48	40.3%	39	34.5%
4 宿泊施設	27	22.7%	34	30.1%
5 入浴施設	32	26.9%	30	26.5%
6 鉄道駅	46	38.7%	36	31.9%
7 バス	33	27.7%	31	27.4%
8 タクシー	23	19.3%	20	17.7%
9 自動車休憩施設	24	20.2%	16	14.2%
10 文化施設	40	33.6%	30	26.5%
11 スポーツ施設	35	29.4%	28	24.8%
12 金融機関	29	24.4%	27	23.9%
13 観光施設	49	41.2%	36	31.9%
14 その他	12	10.1%	11	9.7%
(回答者実数計)	119		113	



【調査結果】

観光施設、官公庁、鉄道駅でバリアを感じると回答した方の割合が多い。

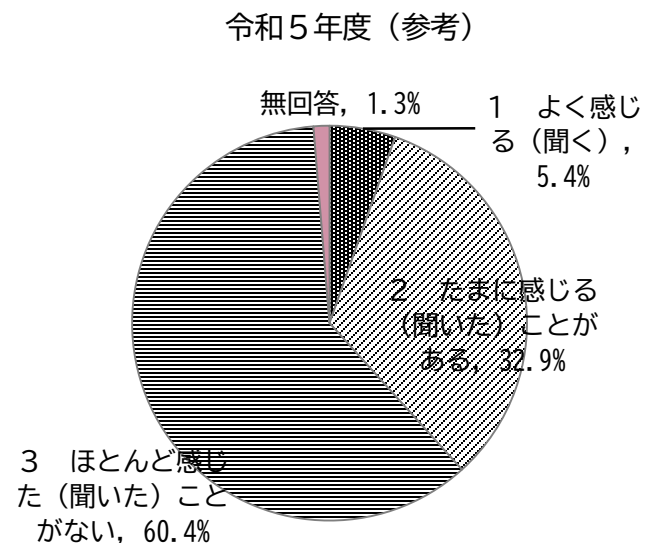
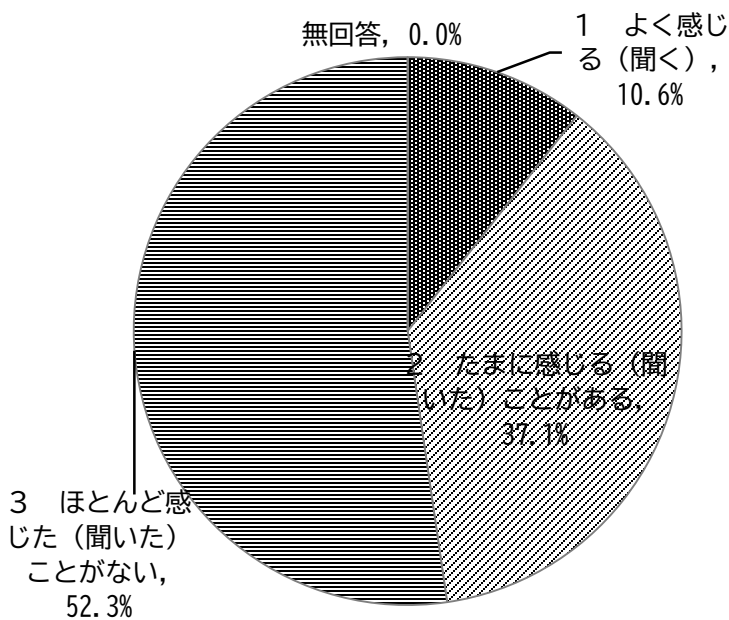
<14その他の内容>

- 目の障害がある方たちが職業訓練に通う近場の道路
- 盛岡駅は開運橋に行くまでが、地下道など会談が多く、松葉杖では大変でした。エレベーターも探しにくい。バスにも乗れません。
- 生活道路
- 店舗入口、神社、寺院他
- すべての施設等で感じます。駐車場から玄関までの距離が遠すぎて、雨の時や、雪の時には非常に困難。
- 最寄り駅は無人駅でエレベーターもなく、階段の上り下りができないと利用できない。
- 歩道等
- 歩くところばかりがクローズアップされていますが・・・、まずは手すりといすが欲しいのでは？！
- 病院前の道路
- 郵便局、駐車できるスペースが少なすぎる。冬は除雪場になってることもある。
- 一般道
- 一般用と障がい者等用の駐車スペースの相互に臨機応変な使われ方の検討を要す。
- 狭い歩道、車の出入口なると急に道路が切れる。
- 一般の歩道のあちらこちらで
- 道路の歩道など
- 大通りの歩道に視覚障害者を誘導する黄色いタイルがないとおもうが、様々な人が安全安心に通れる通りではないのか。酔客がたむろするだけの通りになったのだろうか。

問9

公共的施設の「ソフト」の対応（従業員による車椅子用トイレやスロープ等バリアフリー設備の適切な管理、車椅子の適切な取扱い等介助の技術、言語による意思疎通が困難な方に対する適切な応対等）で不便さや不満を感じたこと、あるいは身近な方から不便さや不満を聞いたことはありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 よく感じる（聞く）	16	10.6%	8	5.4%
2 たまに感じる（聞いた）ことがある	56	37.1%	49	32.9%
3 ほとんど感じた（聞いた）ことがない	79	52.3%	90	60.4%
無回答	0	0.0%	2	1.3%
合計	151		149	



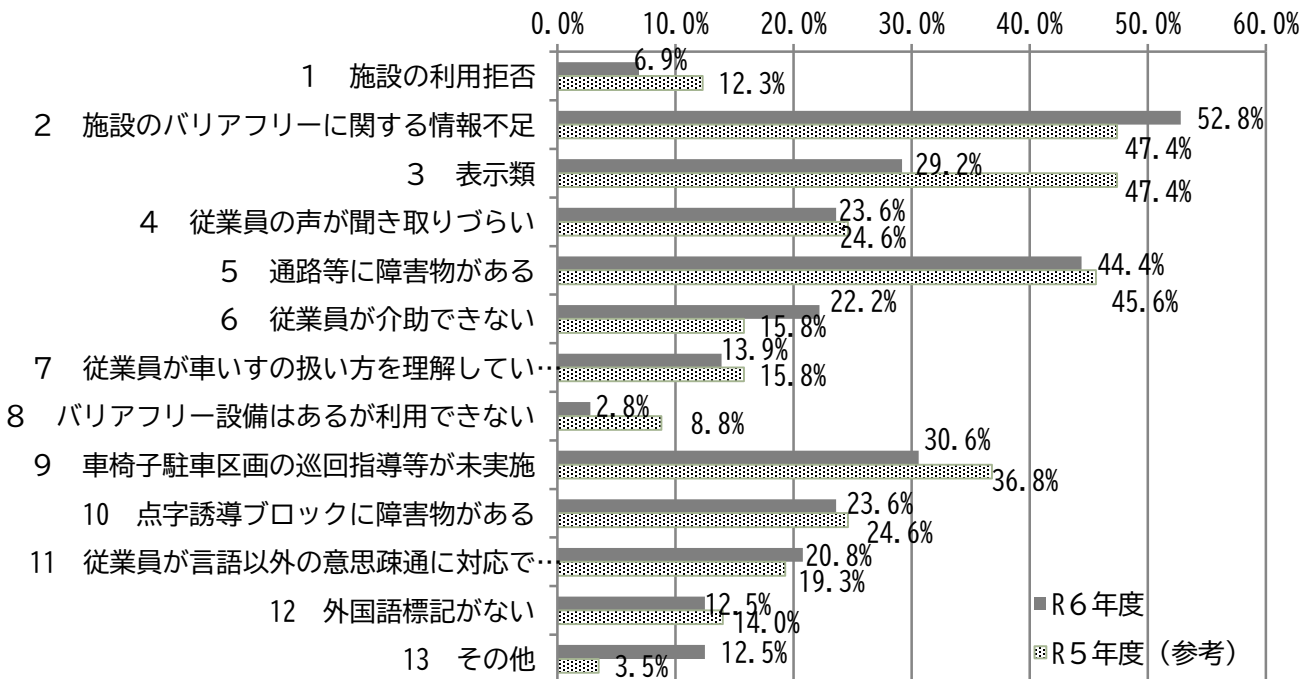
【調査結果】

「よく感じる（聞く）」、「たまに感じる（聞いた）ことがある」と回答した方の割合が、47.7%となり、令和5年度と比較して、9.4%増加した。

問10

問9で①又は②を選択された方にお聞きします。「ソフト」の対応に不便さや不満を感じた（身近な方から聞いた）ことはどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 施設の利用拒否	5	6.9%	7	12.3%
2 施設のバリアフリーに関する情報不足	38	52.8%	27	47.4%
3 表示類が見つらい	21	29.2%	27	47.4%
4 従業員の声が聞き取りづらい	17	23.6%	14	24.6%
5 通路等に障害物がある	32	44.4%	26	45.6%
6 従業員が介助できない	16	22.2%	9	15.8%
7 従業員が車椅子の扱い方を理解していない	10	13.9%	9	15.8%
8 バリアフリー設備はあるが利用できない	2	2.8%	5	8.8%
9 車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施	22	30.6%	21	36.8%
10 点字誘導ブロックに障害物がある	17	23.6%	14	24.6%
11 従業員が言語以外の意思疎通に対応できない	15	20.8%	11	19.3%
12 外国語標記がない	9	12.5%	8	14.0%
13 その他	9	12.5%	2	3.5%
(回答者実数計)	72		57	



【調査結果】

「施設のバリアフリーに関する情報不足」「通路等に障害物がある」「車椅子駐車区画の巡回指導等が未実施」と回答した方の割合が多い。

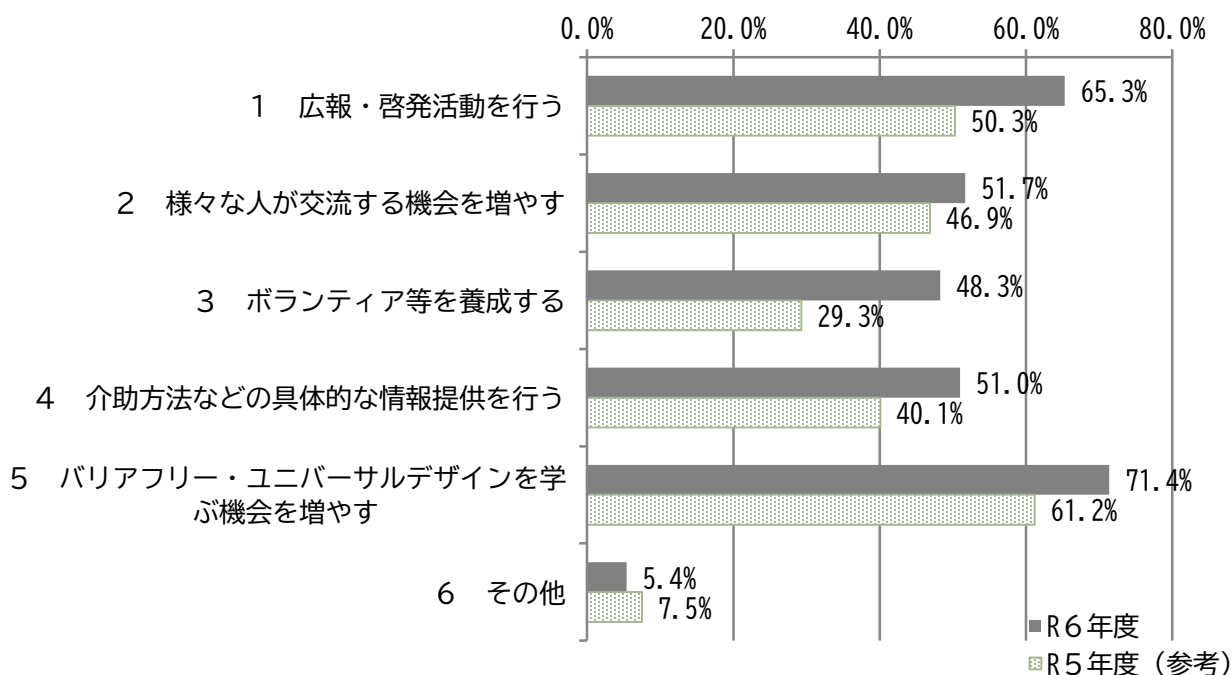
<13その他の内容>

- 大分、改善されてきていると感じるが、たまに忘れるぐらいの頻度でバリアを感じる程度と思う。
- 外国語の表記は少ないと思います。が、少なくともスマホがあれば困りません。
- 点字ブロックの上に平気で自転車を置くことのないようにヒトの気配りを育てることをした方が良いと思っています。
- 全て該当します。
- 車いすが置いてある施設かどうか表示がないため、利用をあきらめる場合がある。
- 自転車の利用者に危険を感じることが多い。
- 景勝地などにある屋外トイレで、オストメイトマークがあるにも関わらず、衛生的じゃない状態の場所があった。設置当初は綺麗だったのに、そのあとの管理次第でここまで不衛生になるのかと残念に思ったことがある。人工肛門の人をはじめ、子供など、感染症に対してもデリケートな人たちのためにも、トイレ設置などの管理にはもっと気を配ってほしいと思った。
- 骨折時に病院を利用しました。トイレが狭く自動照明ではなく、骨折時は大変な思いをしました。
- 点字ブロックが壊れたまま数年放置されている。
- 高齢者や障がい者等の社会的な弱者には進んで声がけできるよう心をこめた対応が実践できるよう育てたいものです。

問11-1

「ひとにやさしいまちづくり」では、建物（ハード）や人の対応など（ソフト）だけではなく、様々な人々の立場を理解し、適切な行動を取ることができるよう、人を思いやることのできる心の醸成が大切であると考えられますが、心の醸成を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	96	65.3%	74	50.3%
2 様々な人が交流する機会を増やす	76	51.7%	69	46.9%
3 手助けするボランティア等を養成する	71	48.3%	43	29.3%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	75	51.0%	59	40.1%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	105	71.4%	90	61.2%
6 その他	8	5.4%	11	7.5%
回答者実数	147		147	



【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」、「広報・啓発活動を行う」、「様々な人が交流する機会を増やす」の順に、回答した方の割合が多い。

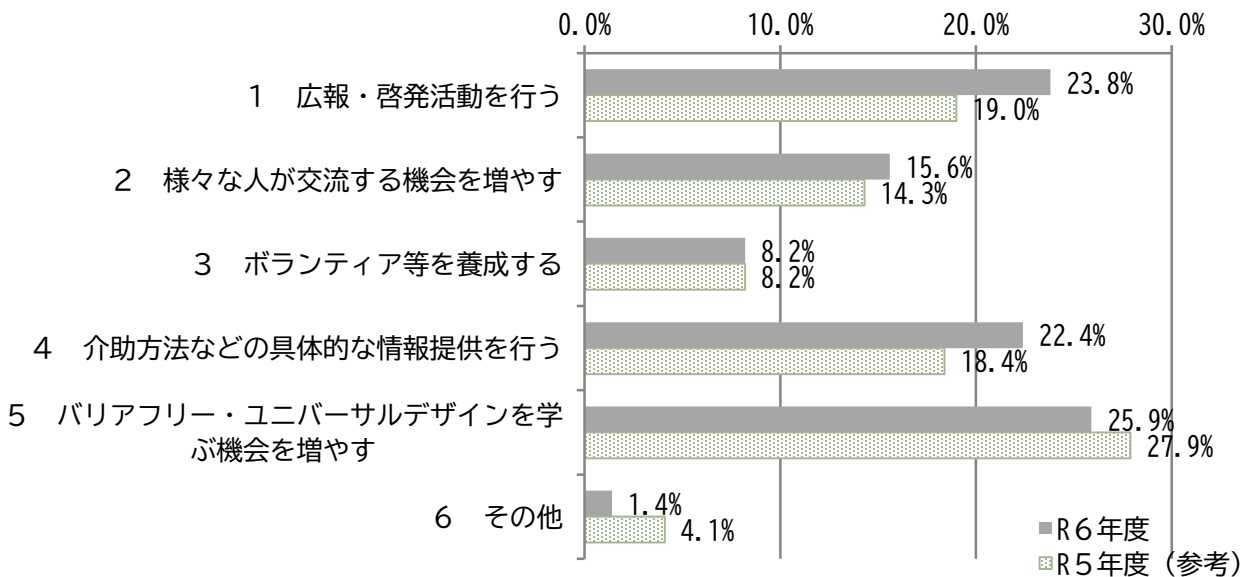
< 6 その他の内容 >

- 目の不自由な方が困っていても、どうしていいか具体的にわからない人は多いと思う。白杖をいきなりつかんでいる人も見たことがあります。私は観光業の講習を受けたときに勉強しました。
- 「自分や家族だったら」と、体験し改善又は寄り添うことを、担当する方々は特に繰り返して行って欲しい。今ある建物や、公共機関の利用方法についても、随時検討して欲しい。バリアを感じてしまっている人は、「しょうがない」と諦めている人が多いので、聞き取りや情報共有を無駄と思わず続けて欲しい。
- 全て
- 公共施設の職員を対象としたバリアフリーや手助けについての研修を開く。
- 岩手県は「イベント」を家族で楽しむ機会に頼ることが多いのでイベントを開催する側はしっかりと準備をするべき。
- 身近に対応者が居なければ中々考えたり行動する機会もないので学校一生徒一家族に広がるのが早いと思います。
- 疑似体験をする。
- 子供だけでなく大人にも車椅子や点字ブロックを利用できる体験をさせてほしい。
- 自らが不自由さの体験をすることにより、人への思いやりが生まれると思います。左記のような体験会の開催イベントも必要かと思います。
- 県や市町村の職員が率先垂範して心の醸成を育み実践することが重要。

問11-2

さらに、その中で最も重要だと思われるものを次の中から1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 広報・啓発活動を行う	35	23.8%	28	19.0%
2 様々な人が交流する機会を増やす	23	15.6%	21	14.3%
3 手助けするボランティア等を養成する	12	8.2%	12	8.2%
4 サポートするための介助方法などの具体的な情報提供を行う	33	22.4%	27	18.4%
5 バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす	38	25.9%	41	27.9%
6 その他	2	1.4%	6	4.1%
無回答	4	2.7%	12	8.2%
合計	147		147	



【調査結果】

「バリアフリー・ユニバーサルデザインを学ぶ機会を増やす」が最も多く25.9%となり、次いで「広報・啓発活動を行う」が23.8%となった。

< 6 その他の内容 >

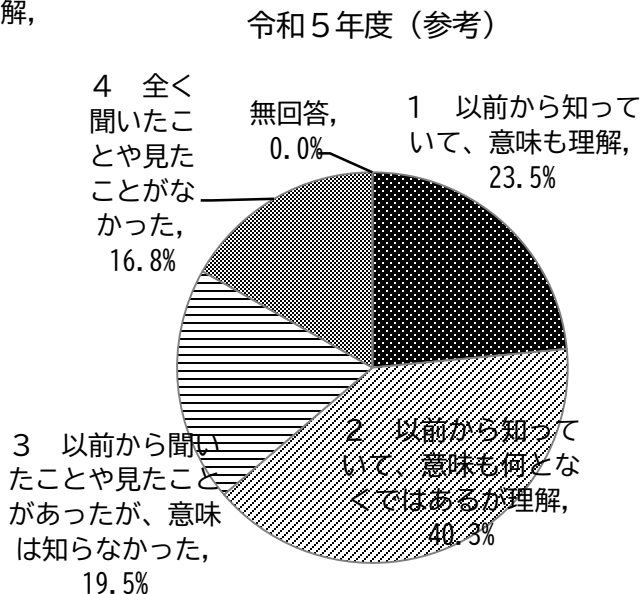
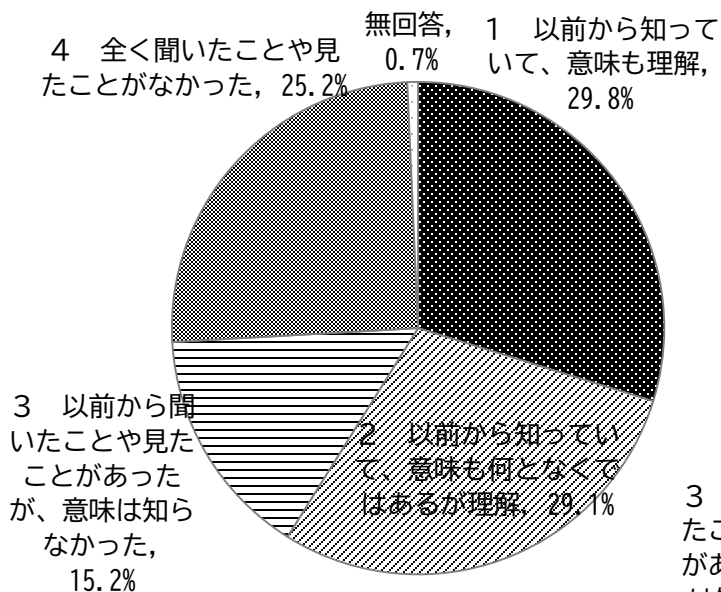
- インクルーシブの意味をすべての人が理解するべき。
- 疑似体験をする。

問12

県では、外見からは援助や配慮を必要とすることが分からない方が身に付けることによって、援助や配慮を得られやすくなるよう、「ヘルプマーク」の配布・普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」について、本アンケートに御協力いただく時点では、どの程度知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度(参考)	
	件数	比率	件数	比率
1 以前から知っていて、マークの意味も理解していた	45	29.8%	35	23.5%
2 以前から知っていて、マークの意味も何となくではあるが理解していた	44	29.1%	60	40.3%
3 以前から聞いたことや見たことがあったが、マークの意味は知らなかった	23	15.2%	29	19.5%
4 全く聞いたことや見たことがなかった	38	25.2%	25	16.8%
無回答	1	0.7%	0	0.0%
合計	151		149	



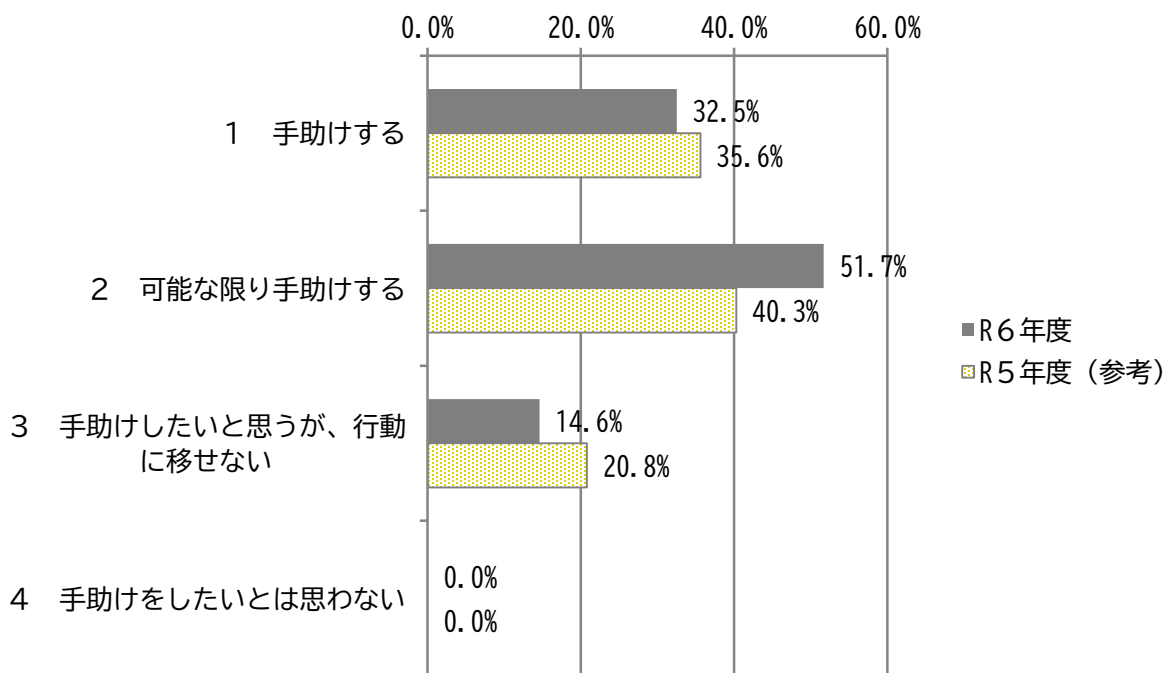
【調査結果】

ヘルプマークの意味を「理解していた」、「何となくではあるが理解していた」と回答をした方の割合は、58.9%となり、令和5年度と比較して4.9%減少した。

問13

あなたは、外出の際、車椅子の方が段差で進めなくなっていたり、視覚障がいのある方が迷っていたり、外国人の方が駅や道で迷っていたりした場合など、困っている様子を見かけた場合、声をかけて手助けをしますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 手助けする	49	32.5%	53	35.6%
2 可能な限り手助けする	78	51.7%	60	40.3%
3 手助けしたいと思うが、行動に移せない（かもしれない）	22	14.6%	31	20.8%
4 手助けしたいとは思わない	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	1.3%	5	3.4%
合計	151		149	



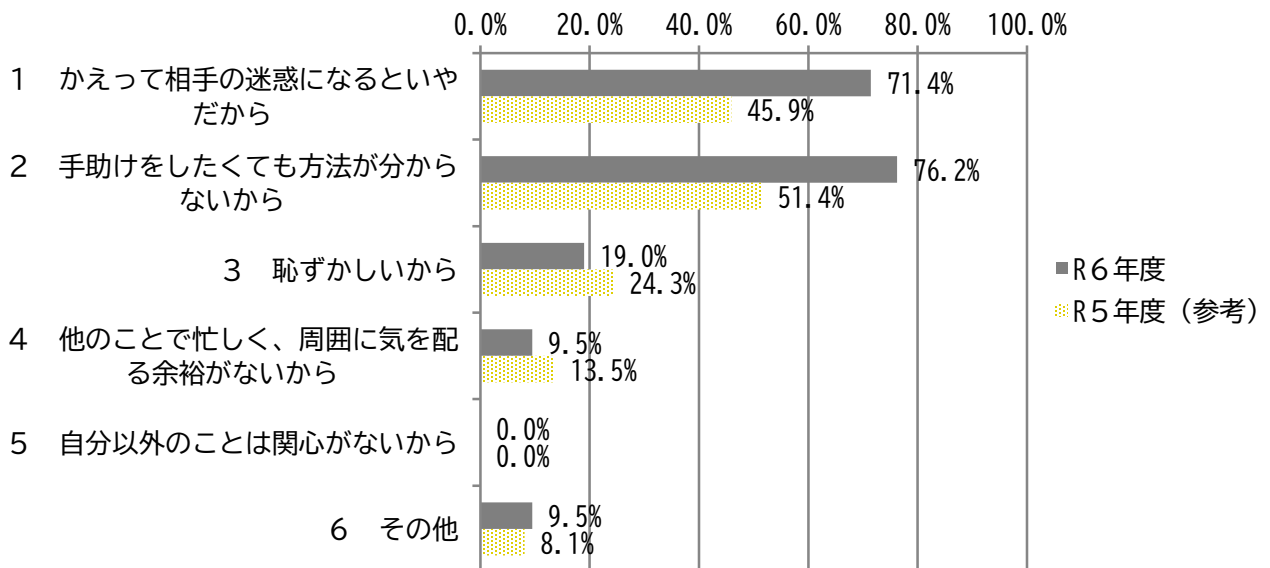
【調査結果】

「手助けをする」、「可能な限り手助けをする」と回答した割合は、84.2%となり、令和5年度と比較して8.3%増加した。

問14

問13で③又は④を選択された方にお聞きします。手助けをしない理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 かえって相手の迷惑になるといやだから	15	71.4%	17	45.9%
2 手助けをしたくても方法が分からないから	16	76.2%	19	51.4%
3 恥ずかしいから	4	19.0%	9	24.3%
4 他のことで忙しく、周囲に気を配る余裕がないから	2	9.5%	5	13.5%
5 自分以外のことは関心がないから	0	0.0%	0	0.0%
6 その他	2	9.5%	3	8.1%
（回答者実数計）	21		37	



【調査結果】

「かえって相手の迷惑になるといやだから」、「手助けをしたくても方法が分からないから」と回答した方の割合が70%を超えた。

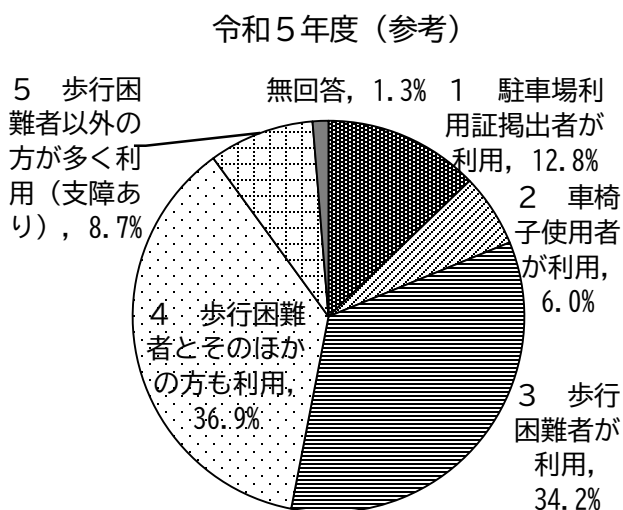
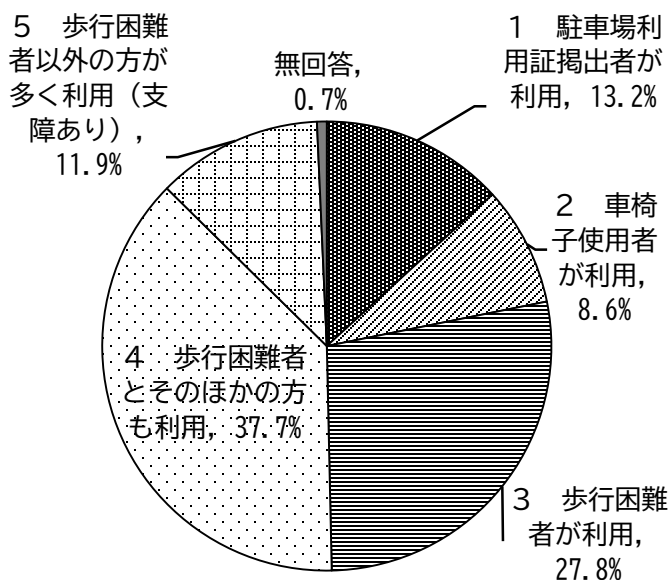
< 6 その他の内容 >

- このご時世、感染症などの伝染が気になる。
- 該当の方が支援を欲していることが分かれば出来る限りのことはしたい。

問15

公共的施設には、車椅子を使用される方や様々な状況で歩行が困難な方向けに「車椅子駐車区画」が設けられています。最近の車椅子駐車区画の一般的な利用状況について、どのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 駐車場利用証掲出者が利用	20	13.2%	19	12.8%
2 車椅子使用者のみが利用	13	8.6%	9	6.0%
3 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者のみが利用	42	27.8%	51	34.2%
4 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者とそのほかの方も利用	57	37.7%	55	36.9%
5 車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）	18	11.9%	13	8.7%
無回答	1	0.7%	2	1.3%
合計	151		149	



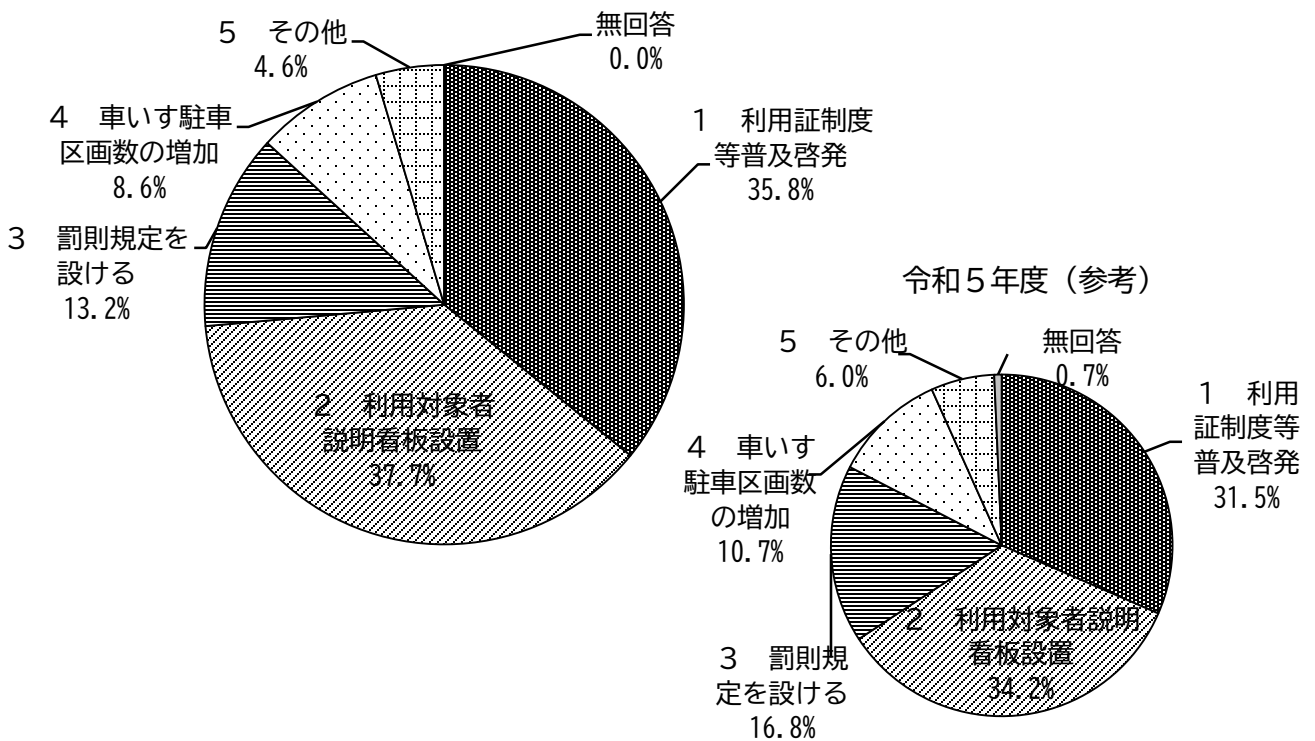
【調査結果】

「歩行困難者とそのほかの方も利用」「歩行困難者以外の方が多く利用（支障あり）」と回答した方の割合が49.6%となり、令和5年度と比較して4%増加した。

問16

車椅子駐車区画を車椅子使用者や高齢者、障がい者、妊産婦等歩行困難な方が支障なく利用できるようにするには、どのようにしたら良いと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 利用証制度等の普及啓発	54	35.8%	47	31.5%
2 利用対象者説明の看板設置	57	37.7%	51	34.2%
3 罰則規定を設ける	20	13.2%	25	16.8%
4 車椅子駐車区画数の増加	13	8.6%	16	10.7%
5 その他	7	4.6%	9	6.0%
無回答	0	0.0%	1	0.7%
合計	151		149	



【調査結果】

令和5年度に引き続き、「車椅子駐車区画利用対象者の説明看板の設置」と「利用証制度等の普及啓発」を求める声が多い。

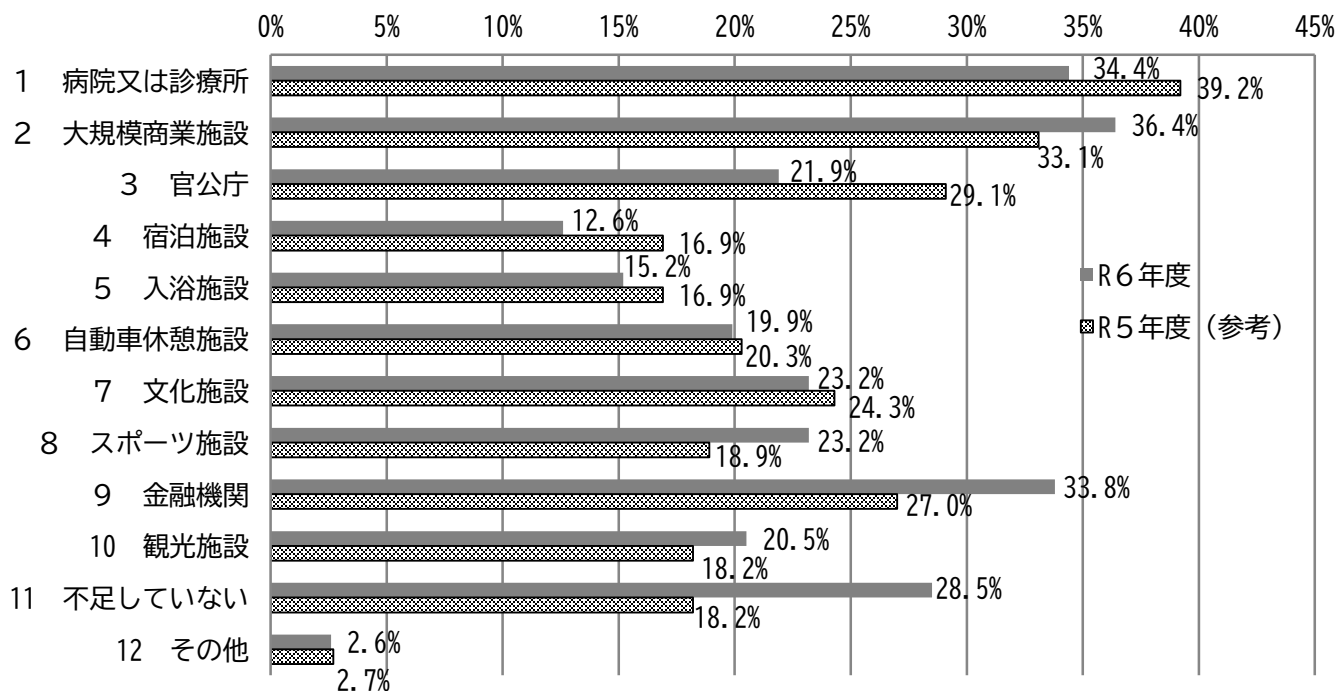
< 5 その他の内容 >

- 駐車利用証をさげても気にしない人が多い。主人がもっていたのですが、誘導する人がいると手を貸してくれるが、いない所は簡単に利用できない。
- 看板等を目立つようにする。
- 運転免許証更新の際に普及啓発を行う。
- 前もっての駐車予約システム・・・
- 一般の人の駐車数が潤沢でないと車いすの方などの専用箇所にとめたくなくなります。
- 免許証更新講習時に「ひとにやさしい駐車場利用証」についての広報・啓発活動を行う。
- 客入多い日でしたが大型スーパー（前潟イオン）ではP困難な方が利用できるよう放送案内流してました。
- 傍目から見て今この停めている方が、利用して良い対象なのか、それとも迷惑駐車の人なのかが分かりづらい場合がある。そこを明確にするために「ひとにやさしい駐車場利用証」を掲示した車しか停められない、それ以外は迷惑駐車と判断される、などの切り分けが必要かと思う。
- 対策方法は見当が付きませんが、健常者が上記駐車区画に駐車できないような工夫が必要。
- 自動車学校で必ず教育する科目に入れる。

問17

次の施設のうち、車椅子駐車区画が不足していると思う施設を全て選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの。）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 病院又は診療所	52	34.4%	58	39.2%
2 大規模商業施設	55	36.4%	49	33.1%
3 官公庁	33	21.9%	43	29.1%
4 宿泊施設	19	12.6%	25	16.9%
5 入浴施設	23	15.2%	25	16.9%
6 自動車休憩施設	30	19.9%	30	20.3%
7 文化施設	35	23.2%	36	24.3%
8 スポーツ施設	35	23.2%	28	18.9%
9 金融機関	51	33.8%	40	27.0%
10 観光施設	31	20.5%	27	18.2%
11 不足していない	43	28.5%	27	18.2%
12 その他	4	2.6%	4	2.7%
(回答者実数計)	151		148	



【調査結果】

「大規模商業施設」と回答した割合が36.4%と最も多く、次いで、「病院又は診療所」が多くなった。

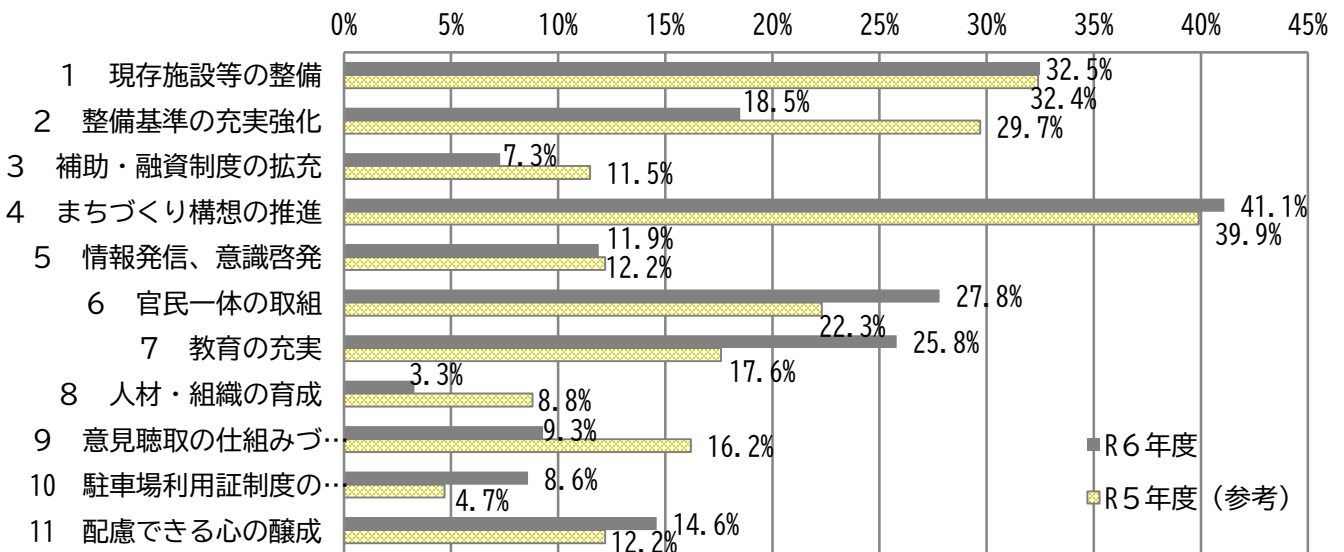
<12その他の内容>

- わからない。どの程度の各施設で車椅子駐車区画は不足しているか調査があるのでは？
- ドアを大きく開ける必要があるなど、その立場になってみないと分かりませんでした。健常者が使わなければ間に合っていると思うのですが・・・
- 駐車利用証をさげていても気にしない人が多い。主人がもっていたのですが、誘導する人がいると手をかしてくれるが、いない所は簡単に利用できない。
- 全て該当
- コンビニ、道の駅、この二つはトイレ使用も多いと思います。
- 病院前の道路
- 不足しているかは不明だが、看板等が無く車椅子駐車区画であることが分かりづらい場所が特に観光地に多いと思う。

問18

今後、誰もが暮らしやすい「ひとにやさしいまちづくり」を進めていく上で、施策として特に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものを2つ選んでください。（複数回答。比率は回答者実数に対するもの）

	令和6年度		令和5年度（参考）	
	件数	比率	件数	比率
1 現存施設等の整備	49	32.5%	48	32.4%
2 整備基準の充実強化	28	18.5%	44	29.7%
3 補助・融資制度の拡充	11	7.3%	17	11.5%
4 まちづくり構想の推進	62	41.1%	59	39.9%
5 情報発信、意識啓発	18	11.9%	18	12.2%
6 官民一体の取組	42	27.8%	33	22.3%
7 教育の充実	39	25.8%	26	17.6%
8 人材・組織の育成	5	3.3%	13	8.8%
9 意見聴取の仕組みづくり	14	9.3%	24	16.2%
10 ひとにやさしい駐車場利用証制度の普及	13	8.6%	7	4.7%
11 ヘルプマークの普及をはじめとする配慮できる心の醸成	22	14.6%	18	12.2%
12 無回答	0	0.0%	1	0.7%
（回答者実数計）	151		148	



【調査結果】

「まちづくりの構想の推進」が41.1%で令和5年度に引き続き最も多くなり、次いで、「現存施設の整備」が32.5%となった。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 「ひとにやさしいまちづくり」は様々な必要としている方の意向が反映できる形にすべきであると思う。段階的な取組を定めて良きまちづくりを継続的に進めることだと思う。
- 盛岡駅に隣接するホテルの前で、点字ブロックの上に自転車が複数とめてあり、地下道への入り口をわかりにくくしていました。私はそのとき時間があつたので自転車を動かし始めたのですが、そうしたら学生さんらしき若い男性二人組が、何も言わずに手伝い始めたのです。
盛岡の人は、どうしていいかわからないだけで、誰かがやっていると、やってくれます。でも頭でわかっていても、やらないと思います。でも頭ではわかっていても、やらないと思います。「罰金なんだってよ」といって「しょうがねえな」という言い訳ができれば、ええかっこしい思われたくないから。だから言い訳がほしいのだと思います。
罰則があってもいいと思います。「罰金なんだってよ」といって「しょうがねえな」という言い訳ができれば、ええかっこしいだと思われなくてすむからです。
(点字ブロックの上に自転車を置いても罰則がない) (車椅子用駐車スペースに健常者が駐車してもわからなければいい)
- ひとにやさしいまちづくりという言葉は昔から言われており、耳障りの良い言葉ではあるが高齢化社会の現代ではどうしても高齢者保護に偏りがちだと感じる。人口減が叫ばれている中では、高齢者や障害者に偏ったまちづくりにするのではなく、現役世代、子育て世代に対しても住み良いと感じるようなまちづくりを考えなければ最後に残るのは老人ばかりという状況になるのではないかと危惧している。
- 「ひとにやさしいまちづくり」について、県民の理解が深まるよう、情報発信が必要ではないかと考えます。
- 誰かを思いやり助けあうには、「体験」が一番だと考えます。
健常者側の疑似体験はもちろん、介護施設やリハビリ施設などへの聞き取りを強化していただき、ヘルパーさんなど様々な方の意見を集めて欲しい。
また、支援学校や福祉施設との交流を増やし、寄り添うとは・工夫するとは何かを、お互い一緒に取り組んでほしい。
ただ、大人の人達こそお互いに不満が出て改善していくまでを交流ととらえ、どんどん取り組んで欲しい。
障がい者の一般就労を増やし、一緒に働き、生活し、お互いに協力できる環境や心の余裕が持てる岩手県を目指して欲しい。グループホームが選べるくらいに増えたり、一人暮らしを希望することを諦めなくてよい、素敵な岩手県にして欲しい。
- 身近に感じる経験ができる事から、協力募れる環境があれば良いと思います。一度経験できれば、次の機会に臆する事なく、ボランティア活動につくことができるように思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 大きな市と山間市町村の環境がそれぞれ異なると思うので、その地域に沿った環境整備が必要と思います。例えば冬になると4時過ぎには、周りが暗くなり障害者の方々にとっては非常に危険な場合があります。その観点から防犯灯の設置を増やすことも必要かと思います。
県民市民の安心安全な町づくりがすべての人々（視覚障がい者、障がい者、年齢、国籍問わず）にとってのひとにやさしいまちづくりだと思えます。
- お金のある市町村は設備が年々充実するが、修繕費もままならない場所は老朽化が気になります。市民センターはどこも大切な集まりの場になっているので、少しずつで良いので施設の見直しをして、予算をつけてもらえると良いと感じます。
- 環境整備を整えたり増設したりしても、利用者（対象者以外の方）の理解度により使われ方が決まってしまうように思いますので、教育による意識づけが着実にしかも確実に土俵づくりにつながる手段であるのではないかと思います。
- 遠野の風の丘はとても使いやすく、飲食の場所も座敷と椅子があり使いやすいです。
- 駐車場に関してですが、自分は障がいを持つ子供がいます。一応駐車場利用を申請していますが、双子の赤ちゃんがいる方のことを考えると台数が少ない場所は使う気にはなりません。年子〇歳以下とか、双子〇歳以下にも、利用できたらいいかなと思いました。
- 釜石で2番目によく使われる道路をベビーカーを押して歩いてみたが、段差がひどすぎて、ベビーカーには厳しかったです。車いすは無理と感じました。
- 沿岸部なので、公共施設は比較的新しいので使いやすいが、レストラン等は入口に段差や狭さがありとても使いにくい、推進してほしい。
- 海水浴場に関してのバリアフリー化を徹底して欲しいと思います。他県に比べて、営利施設等少ない分、今ある価値高い自然を楽しめる場所のバリアフリー化を徹底して欲しい。何よりも美しい岩手県の自然をしっかりと県民のみんなが感じられるようにしてほしい。
- 2022年9月、国連の障害者権利条約委員会が日本政府に対し、障害のある子どもに対する「特別支援教育の廃止」と「インクルーシブ教育の実現」などを含めた「勧告」を出しました。内陸部のお子さんがあるご家族の方が教育委員会の方とお話しをした内容を聞きましたが、教育委員会の方がインクルーシブ教育についてご理解されている感じはしませんでした。しっかりと県として、少しずつでも改革を進めて欲しいと思います。インクルーシブな遊び場に関しても、しっかりと声を聞いて作ってもらえたらなと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 今まで自分が不満に感じていたことや、逆に理解が足りていなかった部分が改めて確認できました。今まで以上に、多くの方がすごしやすい岩手県になればうれしいです。
- 年齢に関係なく、マナーの悪い方を見ることがあります。皆様と同じように教育を受けてきた方々だと思のですが、この差がどこで違ってくるのかわかりません。それでも、小さい頃から親、学校等で教育を行えば優しく思いやりを持った人が育つのではないかと思います。
- 家族がヘルプマークを利用しています。これ何？と聞かれることもあり、まだまだ知らない人が多いと感じます。バスの中に、ヘルプマークについて乗客に知らせる掲示があるのを見かけたことがあります。あまり見てはもらえないのか、カバンに身につけていても気づかれないようです。私も家族がヘルプマークをつけているためその意味がわかりますが、身近に様々なマークを着けている人がいないと、なかなか、そのマークの意味がわからないということもあります。体調が悪くて譲ってほしい時も、他の方に申し訳なくて言い出せずに我慢することもあるそうです。そういった方々が安心して生活できるよう、小学校に入った頃から、総合学習などで、支援が必要な方への対応や、マークの意味などを、伝えていくことが必要だと感じます。また、大人も勉強する機会は必要だと思います。事業所や県民みんながぱっと見てわかるようマークの意味、どのような援助や配慮が必要かが書かれた掲示物や冊子があると参考にとできると思います。
- みんなが使いやすいようにバリアフリーになっていない所を見直し建て直しやスロープを付けるなど工夫する必要がある。
- 特に公共施設周辺においては安全面が配慮され、安心して休憩したり散策ができるようなスペースの余裕がほしい。
- 全体として、このアンケートの必要があまりない気がしました。すべての人のすべてが狭いなと。
- 車は問題ないと思います。問題は歩行者の立場に誰も立っていないこと。そもそも点字ブロックありませんよね？しかも役所や病院近辺さえ。目が見えなくなったら、岩手では生きていられないと思っています。
- 年齢が上がると今まで、できていたことができなくなったりします。新しく作るものに関しては、段差がなく使いやすいデザイン（ユニバーサルデザイン）を大いに取り入れていただきたいです。古い建物に関しても段差をなくしたりの改修を徐々にしてもらえればと思います。そして全年齢層が安全に使えるような仕様を日々研究していただき、よいものを取り入れていってほしいです。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 白い杖をついた目の見えない方や盲導犬を連れて歩いている人を病院前で見ました。点字ブロックが壊れていて凸凹した歩道、草が歩道の真ん中まで伸びていて歩きづらそうに感じました。私達健常者も歩きづらと感じています。町全体、誰にでも優しい暮らしを考えて欲しいです。
- 家の近くに障害者を支援する建物がありますが、障害者やその家族だけが参加できるお知らせが回覧板で届きます。健常者も参加できたらいいのにと思っています。いつも見えています。いつそうなるのか誰にもわかりません。何が不便なのか知るきっかけにもなります。誰でも参加できたらいいと思います。
- 聴覚障害者と関わる仕事をしています。まだまだ社会への周知と理解が足りないようです。ハンディキャップを持っていても生き生きしている障害者を見習えるよう、周りの人達が逆に力を貰えるよう、そんな社会を目指せばいいなと思います。
- 盛岡市とか北上市、一関市等の人の多いイメージの市町村ではある程度それなりかと思われませんが、奥州市では、まだまだかと思われまます。
- みんなにやさしくなければ自分以外にやさしくなれないと思うので、県民全員によい政策をお願いしたい。
- 弱者の立場になって、困っている方が近くにいたら、介助をしてあげ、周辺に目配り・気配り・心配りをし、皆が安心して過ごせるよう官民挙げてソフト面の仕組みを構築する必要がある。
- ひとにやさしいまちづくりより、自分の生活、仕事のこと、頭がいっぱいなので、そのようなことを考える機会がないような気がする。
- 過去の交通標語に「ゆっくり走ろう岩手県」というのがありましたが、例えば、「ひとにもちょべつとやさしい岩手県」というようなキャッチフレーズを作って、シール化等して該当場所に掲示するのは如何でしょうか？
- よく理解している人とそうでない人の差が大きいと感じる。小規模な地域自治単位での普及啓発活動に取り組む事により、広く社会全体に浸透する事が期待されると思います。
- 公共施設より商業施設（特に飲食店や小売店など）での優先駐車区画の利用マナーが悪い。車椅子の利用者のみが優先されると勘違いしている場合が多いのでは無いか。車椅子以外の優先されるべき障害等の理解が進むことも期待する。駐車区画においては古い施設の駐車場等は区画が狭く、健常者の利用においても利用がしにくい。特に乗り降りの時に隣の車との距離が近くなる。
- ひとにやさしいまちづくりの中に、道路（歩道）の整備も組込んだ考え方が必要なのでは？縦割り行政ではなく各部署の連携をした考え方も必要なのではと考えます。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 比較的新しい公共施設は、バリアフリー化は構築されていますが、反面、岩手県内にはまだまだ古い公共施設、建造物が多いのが現状です。一刻も早く公共施設（場所）の段差解消、トイレ不足、案内表示板の不足未設置等の現状を把握し改善が必要かと思われます。（令和5年度第三回意識調査でも要望、R5・8）
- 今回の設問該当外？になるとと思いますが、道路交差点角（十字路、T字路）近辺にのぼり旗、商店案内三角柱、円柱（事務所、病院等）、議員ポスターの立看板（事務所）等が車運転の死角になり、衝突事故等、誘発しかねない、規制して欲しい（道交法上で管轄外なのではないでしょうか）
- まちづくりなのでハード面の整備になりがちだが、何故それが必要なのか？どのように使うのか？などソフト面での理解が必要と思います。
- 日本人特に岩手県人の気質として、人に迷惑をかけたくない気持ちが強いと感じている。しかし、必要なときにヘルプマークを使えなければ意味を為さない。逆に、障害者や妊産婦が不便を感じているのではと感じた際に、どのように声をかけたら良いかも分からない人も多いと感じる。恐らく特別な事として捉えるから手助けの声かけにも不安があるのではないかと思う。
- 子供の頃から生活の一部に当然な事として障害者や高齢者がいて、生活の一部として関わっていれば手助けも自然にできると思うが、家族や身内にいない場合は触れ合う機会が無いと、小さい頃から障害者や高齢者施設などで触れ合いを持ったり、教育の中で障害者や高齢者の困り事を理解し手を差し伸べる方法を覚えていくと、自然とできるようになるのではと思う。その事が、後々バリアリーやユニバーサルデザインの意識にも繋がっていくと考える。
- 健康な時は、さほど気にもしなかった駐車場ですが、股関節の痛みで歩行が困難になったとき、利用する施設等の出来るだけ近くに停めたいと思いました。車椅子マークに、ちょっと胸が痛みましたが、背に腹は代えられない状況でした。術後、歩行は楽になりましたが、乗降時、ドアを大きく開ける必要があり、狭い駐車場は、隣の車が気になった（ぶつけるかと思って）恐怖です。一見健康に見える人でも、例えば、私のように、駐車時、ちょっと困るとか、ピンポイントで不便を感じている人がたくさんいると思います。証明書等がなくても、ちょっと困っている人たちの「不便」を解消できるようになれば、自ずと、障害がある方々も利用しやすい世界になるのではないのでしょうか。
- 知らない事ばかりでした。
- あまり強制することなく優しい気持ちで対応できる社会になってほしいと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 盛岡の方は基本優しい方が多いと感じますが、バスなどを利用している中で、自己中心の方を見かけることもあります。やはり、家庭環境とか学校での教えが昔より希薄しているのかな？と思います。幼い時から、あいさつ、人の気持ちを考えるような基本的なことを教えることが大事だと思います。
- 県土が広くすべて整備していくことは大変だと思いますが、少しづつでも改善されていくことを願います。
- 住民に対してはもちろん、増加している観光客に対してもやさしい町でありたいものです。
- 県民一人ひとりが「自分が同じ立場であったならば」という視点に立って行動することが必要であると考えます。私は障害者ではないから、関係ないという視点では、これからは、摘要しないのではないかと思います。
- 若い人の方が援助の仕方を心得ているし、意識も定着している人が多いと思う。教育の成果だと思う。
- JRのきっぷの窓口販売が減り「高齢者はきっぷが買えない」という声が多く聞かれる。「高齢者は電車や新幹線に乗るな」とも言われているように思う。駅員は券売機の前に立って使い方を説明しているため、たくさんの方が並んでいる姿を見かけた。これが人に優しいのか疑問に感じたので書きました。
- DX化により人を減らしてタブレットを置いている。タブレットだったらスマホから検索できる。のらないコアな情報を知りたい。⇒人に優しいに逆行している。
- 誰しも予期せぬ病気やけがで不自由な生活を強いられる可能性があるし、いつかは高齢になり身体の自由がきかなくなる可能性があると考えたら他人ごとではいられない。誰もが安心して暮らせるまちになるように今、自分たちのできることは何か考えながら生きていきたい。
- 困った事の経験をすくい上げて施策に生かす。
- おもいやりの精神をもって生活（自分の前に相手を考える）
- 県民性、市民性、町民性、育った環境で人間性も違っていると思いますが、やはり幼少期からの育む心が優しさにつながって行くと思う。
- 問11にある質に⑤と解答しました。子供が小さい頃の経験談ですが、運動会、お昼時となりの席のおばあちゃんが孫に教えられたお買い物するならジョイスでして！！ユニバースは青森県だから税金は青森に払うジョイスは岩手県だから自分達の県に利息あるのだからと思い出し子供の声掛けに関心と教えを頂くとハッとしたそうです。この方法効果（大）です。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 高齢者用ラクター利用者を見かけるが、歩道が狭すぎて車道を使っている。高齢者歩行、買物や散歩をしている人よく見かけるが、疲れて立ち止まっている。所々に椅子など腰掛けられるものがあると大変助かると思う。歩道がないに等しいくらいなのに、冬雪道を除雪する時、車道の雪を歩道側に寄せてまったく歩けなくなる。
- 以前、民生委員を務めていました。「個人情報保護」が厳格になり、名簿提供がされなくなってきました。福祉団体間協力体制を作るためには、情報交換の方法や内容を再検討する必要があるのではないかと思います。活動の必要な情報は扱いに注意しながら、できるだけ共有できればいいと思いますが・・・。
- ただ“やさしく考えましょう。やさしくしてあげましょう”という考えは、ちょっとちがう気がしていて・・・。ボランティアで障がいの方と話すことが多かったので、聞いてみたことがありました。大体、みなさん同じことを言います。“障がい者でも、高齢者になっても、特別なことじゃなく、住みやすいのを希望しているだけ”と。そこが大切だと思ってます。むずかしいですが・・・。あと、岩手は広いです。中心部（盛岡）ばかりが進んで、地方（沿岸や他）が置いてきぼりになってしまうようにすごく感じます。どこに住んでも同じように住みやすい、すばらしい岩手になってほしい。
- 手助けしようとしても出来ない方は、「いつ」「どこで」「誰に」「何を」「どの程度」「どの様に」するのか分からないからと思います。弱者の方に付き合うには、ふれ合いの機会を繰り返せば身に付きます。
- 障がい者等駐車場に暴力団風の健常者が堂々と駐車したり、店員など、障がい者や高齢者に生産性のない落ちこぼれ者のように人権や尊厳を無視したかのような卑下した言動の方がいます。この方々は教育以前のしつけの問題と社会から自分の存在を認められていないからと思います。
- 市内にある電柱で夜光反射材が古くなって効果がない所がいくつかあったので、NTTや東北電力に連絡して改善してもらったが、これも「ひとにやさしいまちづくり」につながるかもね。
- 視覚障がい者の方は街で白い杖を突いて歩いているので分かりやすいが、聴覚障がい者の方は分かりづらい。信号機が光に反射して見えにくいときは音があるので、よく見えるような工夫が必要。
- 県のHPでバリアフリー情報のマップがあるのは知らなかった。もっと皆に知られるように広報活動したほうがよいと思う。
- 正しい情報の理解と共有が大切だと思います。

問19

「ひとにやさしいまちづくり」全体について、御意見や御要望等ありましたら御記入ください。

- 市役所のWCの床やドアが引き戸でない為、車椅子の方々やオストメイトの方々が使えるようなWCであってほしかった。床もそのまま不衛生極まりない。盲者の方々はどうやってWCを認識するのでしょうか。医大にも手話できる方々いてほしい。
- 基本的に岩手人はやさしいので、色々な場面で声をかけたり手助け出来ると思うのですが、人口が減って高齢世帯が多いのが心配です。
- 公共的施設の入口の扉ですが、少し古い建物だと手動のドアのままの施設がけっこうあります。法律か条約ので！全ての公共的施設は自動ドアにしなければならないとした方が良くと思います。特にトイレも衛生面からいって、自動ドアが望ましいと思います。
- 高齢者とは何歳以上が適応されるかわからない。今後は高齢化社会になっていくので、スペースを増やす必要があると思う。
- “人にやさしい街づくり”推進指針にもあるユニバーサルデザイン7つの原則 公平、柔軟性、簡単、感覚、許容性、労力、大きさと空間について理解を深め、身近に主体的に取り組めるよう県民に対しても推進体制の整備や進行の管理、取組支援など全県的な進め方等をこまめに説明して理解への協力を得たいものです。
- 熊が市街地に現れないように個体数を減らし、安心して生活したり散歩したりできる県や日本にしてほしい。（バリアフリーどころではありません）
- 家族に障害者手帳を持った方がいる・・・という質問ですが、その前に“以前”家族に障害ではいかがですか。
- 多様な考え方が尊重しつつあるが、周囲に迎合して自分の考えを封印する傾向がある。又、多数の中で個の意見を黙殺するケースも散見される。ジェンダー意識育成とともに真の個を尊重する社会であってほしい。